

# 黒花豆の栽培展示成績

帯広市川西農業協同組合

## 1. 目的

黒花豆（仮称）の栽培特性を大白花と比較する。

## 2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

## 3. 栽培方法

(1) 供試品種：「黒花豆（仮称）」「大白花」

(2) 面積および区制

1区面積 15.2 m<sup>2</sup>（畦幅 80cm×2畦×9.5m）反復無し

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	畦幅×株間	栽植本数	栽培法
沖積土	壤土	にんにく	80cm×80cm	1,562 株/10a	露地・手竹

※1 株2本立ち

施肥量(kg/10a)							防除回数	
施肥は種	肥料名	窒素	リン酸	加里	苦土	病害	虫害	
5月26日	農配豆2号 45g/10a	2.0	9.5	4.5	2.0	3	4	
7月4日	追肥 硫安 20 kg/10a	4.2						

## 4. 試験結果

(1) 生育調査

供試品種	出芽期	開花期	つる上げ	根切り	脱穀時期
黒花豆（仮称）	6月3日	6月27日	6月23日	9月23日	10月18日
大白花	6月3日	6月29日		9月23日	

- ① 7月中旬にはかなりの落花が認められ、着莢不良が見込まれた。
- ② 着莢が極端に少ないため、莖葉の生長は衰えることがなかった。そのため、莢先熟が明らかとなり莖葉が黄化する前に根切りを行った。
- ③ 莢はほとんどが莖葉の中に埋もれており、成熟期の判定はできなかった。

(2) 収量調査

供試品種	総子実重 (kg/10a)	製品子実重 (kg/10a)	左比	百粒重 (g)	屑豆率 (%)	等級	製品 等級
黒花豆（仮称）	141	49	153	143	71	外	4上
大白花	167	32	100	155	81	外	3下

- ① 整粒の割合が非常に少なく、唐箕選を終えた段階の等級は外だった。
- ② 未熟莢が多く、選別後の検査等級は、「黒花豆」(仮称) ※以降黒花豆と記載は4等上、「大白花」は3等下となった。
- ③ 「大白花」の屑豆率が高い原因は、莢あたりによる粒の着色と充実不良が大半だった。
- ④ 総収量は「大白花」がやや勝ったが、手選別で除外する屑豆が多かった。これは、莢あたりによる着色が「黒花豆」に比較して明確なことによる。
- ⑤ 「黒花豆」の中に、4%の紫花豆と6%の白花豆が結実し、「黒花豆」は90%の割合となった。

## 5. 考察

- ① 「黒花豆」に紫花豆と白花豆が混じた原因は、他家受粉の影響か、遺伝的特性なのかは判然としない。
- ② 総子実重は「大白花」がやや勝った点からして、「黒花豆」の収量性は「大白花」並からやや劣るのではないかと予想した。
- ③ 紫花豆の系統が、開花時期の高温に弱いことが改めて確認されたが、「黒花豆」の希少価値をセールスポイントに栽培するためには、平常年の生育を確認する必要がある。



唐箕選後の状態



黒花豆に結実した紫花豆と白花豆



選別後の状態



落花の様子（7月18日）



黒花豆に咲いた白花豆